

第 1 回検討委員会の振り返りおよびご意見について

資料1

連番	項目	設問	発言者	質問・意見	検討委員会での回答	その後の対応
検討委員会でのご意見						
議事 2（3）「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」策定方針について（案）について 資料4・資料5						
1	資料4 「第4次健康都市いずみ21・食育推進計画」策定方針（案）	石橋委員	・資料4は文章で残るのか、口頭での説明のみとなる予定か。 ・文末の表現を統一してもらいたい。資料4の3行目など「もの。」で終わっているものは「ものである。」に、「目指します」は“である調”で「目指す」と修正してもらいたい。 ・資料4の2ページ（1）で、「～について」の後には「の」や「は」を入れたほうがよい。	・構成案1章部分に掲載され、推進体制は9章に載ることになる。	左記同様 文章表記について改める。	
2	資料4 5章スローガン、市の取組方針	内藤委員長	・第3次健康計画の市民の認知度はデータがあるか。認知度が低ければ、より強力なスローガンが必要となる。 ・計画の内容も重要だが、周知のためにはスローガンも大事なので、各委員からアイデアを出してもらえればと思う。	・第3次計画策定時に概要版を全戸配布し、また周知啓発の際には計画で実施している具体的な取組みについて周知しているが、認知度についての調査は行っておらず、把握できていない。 スローガンなどについて本日の委員会では決定せず、次回の検討いただきたい。委員会全般について、事後の意見聴取をお願いしており、忌憚のない意見をいただきたい。	【スローガン】 第4次計画の目指す市民像について、本市の課題を踏まえ、市民にわかりやすく認知しやすいスローガンを第2回検討委員会で議論いただき決定する方向で準備する。	
3		石橋委員	・現行計画のスローガンは長いように思う。 ・ヘルスアップサポーターの一員であり、スローガンを作成しているが、話し合いの中で案が出てくるため、最初にスローガンを作成するのは難しいと考える。 ・キャッチコピーについて「健康は健康、未来への贈り物」			
4		井上委員	・検診受診率をあげることが重要になってくるかと思い、それに沿ったものがよいのではないか。ストレートに「検診を受けましょう」や「検診を受けて健康寿命を延ばそう」など。			
5		永田委員	・大阪府の健康寿命は全国の中でもかなり悪い。そのあたりもアピールできるようなスローガンであるといよい。			
6		内藤委員長	・専門職では健康寿命の悪さはある程度意識されているが、一般市民にはほとんど意識されていないと思う。悪いところも課題として掲載できるとよい。 ・資料5で8章が「市民と地域・団体が主体的に取り組む健康づくり・食育推進」となっており、行政の施策の提示だけでなく、市民が主体的に健康づくりを推進していく点を重視して今回は議論できるとよい。前回計画では軽く触れているにとどまるが、市民の連絡会などを活性化して健康づくりを進められればと思う。			
7		内藤委員長	・危機的状況でも縮小しない、レジリエンスの高い、強いしぶとい健康づくりを仕組みの中に入れる必要がある。コロナが流行っても停滞することのない仕組みを盛り込む視点も踏まえて、持続性のある仕組みについて検討してもらいたい。			
8		藤原委員	・今までの計画を確認し、細かに目標が定められるとよい。ただ、これらがいかに市民に分かりやすく興味を持って見てもらえるかが課題でもある。 ・5年、10年先を見たときに高齢者のみならず、青年、子ども世代にどう伝わるかが大切。 ・若い世代（Z世代など）が重視する視点として、「貢献、成長、やりがい、仲間（つながり）」などが挙げられる。 ○健康都市「いずみ」を目指し、自分らしくいきいきと暮らせるとは、 ⇒生涯を通じ、こころとからだの状態に関心を持つ（成長する） ○ライフステージに応じた健康づくりの情報や機会（SNSなどを活用したデジタル化⇒伝えるだけでなく発信する） ○仲間と健康づくりができる（仲間と支えあう）などをキーワードとして考えた。 ・食育についても同様で、健康ととてもつながり深い。		【計画策定の考え方】 以下の視点にも意識した計画策定をすすめていく ・課題の整理 ・市民が主体的に取り組む健康づくりの視点 ・危機的状況でも縮小しない、持続性のある健康づくりの仕組み ・市民に分かりやすい具体性のある目標設定 ・5年、10年先を見すえ、ライフステージに応じた取組の視点	
議事 2（4）和泉市の健康づくりと食に係る概況（速報）について 資料6						
9	資料 6 1 (3) (4) 世帯数 5 要介護認定の状況	井上委員	・独居、二人の世帯が半数を超えており、また介護認定が増えている件で、全国的な少子高齢化が原因だが、今後もさらに増え続けることを見据えての対策が必要になると感じている。（国や府、市で既に施策が考えられていると思うが、この会議に関わるもので何かあればよい。）		本市においては、高齢者の課題に特化して高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画において、重点的に施策が講じられている。	
10	資料6 2（3）死因別死亡者の割合	井上委員	・令和4年までの数字だが、死因でコロナその他感染症によるものはその他に含まれるのか。		人口動態統計の「特殊目的用コード」に分類されており、資料6で提供している表ではその他に含んでいる。	
11		早崎委員	・P4. 死因別死亡者の割合のグラフの「肺炎」と「脳血管疾患」の表し方がおかしいように思う。肺炎はオレンジ部分を指すのではないかと思う。		修正を行った。	
12	資料6 3 自殺の状況	石橋委員	・6ページの自殺の状況など、説明文で西暦が使われているがグラフは和暦となっている。説明文も和暦に統一したほうがよいと思う。		表現を統一した。	
13		井上委員	・自死が増加しているが、年代別などのデータはあるか。高齢者と壮年、若年層ではケアも変わってくるのではないか。		要介護者増加への対応は、課題に特化して高齢者保健福祉計画及び介護保険事業計画において、重点的に施策が講じられている。	
14	資料6 4 平均寿命・健康寿命	井上委員	・健康寿命の延びについて、健康寿命増加が平均寿命増加を下回っているという点が気になる。要介護認定増加などにも繋がると思うが、全国的な傾向か。		全国的にも同様の傾向である。	
15	資料6 6 和泉市国民健康保健加入者の状況	永田副委員長	・喫緊の課題は心臓と腎臓（心不全とCKD）であるが、その基本となるのが食育であり、長期的な取組として食育を中心とした介入も重要な要素である。 ・今回、健康増進計画と食育計画が一体化されることは非常に正しい試みだと思っている。		概況から見える課題やアンケートから見える市民意識・行動なども含め、次期計画の方向性や施策（案）を提示し、検討委員会で検討いただく。	
16		早崎委員	・和泉市食生活改善推進協議会の活動においては減塩や野菜摂取が主になっている。糖尿病を予防するためのスローガンなどは現在ないが、腎不全も糖尿病から移行するとのことで、糖尿病予防のための活動にも力を入れなければならないと感じた。			
17		永田副委員長	・透析患者の原疾患としては糖尿病性腎症が最も多いが、治療の効果もあり上げ止まりの状態となっており、今後は高血圧からくる腎硬化症が増えるため、高血圧予防に向けた減塩などが必要になる。10年ほどかけて悪化するので今のうちからの対策が必要である。			
18		内藤委員長	・高血圧、糖尿病が日本人の二大国民病であり、食事の影響が大きいが、ICTの普及などにより体を動かさない人が増えているとのデータもあり、食事に加えて運動不足も課題として併せて対策が必要である。 ・またメンタルヘルスについては職域において対策されていることもあるが、地域ベースで検討することもよいのではないか。 ・タバコは国が10年ほど前から本腰を入れてきたため、ある程度順調なほうではある。タバコや飲酒など生活習慣には様々な要素があるため、全て同様に取り組むか、重点的に取り組むか議論してもらえるとよい。			
			上嶋委員	・近年は歯科健診を受診した患者で糖尿病を疑われるケースが多くなっている。 ・早期発見のため健診受診を促していき、結果的に医療費を抑制する方法について検討することが必要である。歯科としては、口腔の状態から全身疾患が疑われる場合の医科との連携が重要な事項と考えている。		
20	資料6 8 歯の健康、口腔機能	内藤委員長	・歯科、医科、健康づくりについて、可能な部分は共通化できるとよい。 ・歯科口腔計画は和泉市では策定されているか。	・歯科保健について単独での計画は策定していない。	コロナ前の水準に戻ったとも読み取れるが、どの年代においても要医療の割合が7割を超えており、受診率の向上も含め、市民意識調査の結果も踏まえ評価、検討する。	
21		井上委員	・「年代別要医療の推移」で令和5年度に40代で増加率が大きいのが要因としては何が考えられるのか。 ・大阪府よりは多いが検診受診率が低いため、これを上げていくことが必要と思われる。			

22	資料6 11 小中学生の肥満の状況	永田副委員長	・高度肥満の学生が多くなっており、市立総合医療センター肥満外来への受診を指導してもなかなか受診に繋がらない現状があり、本人や親の危機意識が少ないことが背景にあると認識している。 ・やはり食育が重要であり、こども、心不全や腎不全など病気の人、健康な親たちの3者を対象とした食育の取組みが必要である。		
23	その他	藤原委員	・20代、30代、40代といった若い働き世代・子育て世代の意見としてアンケートなどから聴取されていると思うが、大学生など含め、多くの方の意見を反映しやすい場などあっても良いと思う。 ・年代別で、健康や食生活について、家族・友人などとお話する（伝え合う）機会はどの程度あるのかを確認できても良い。自分事として考えるには、「情報をきく・みる」だけでなく、「話す・伝える」ことが大切と言われるため。		小中学生の肥満状況や意識調査の結果も踏まえ、ウェルビーイング推進会議とも連携し、次期計画においてもライフステージに応じ健康増進と食育を一体的に取り組む。
24		内藤委員長	・ウェルビーイングに関連するものとして、QOL向上の視点からも認知症や介護の予防に生活習慣が関係してくる。健康づくりで疾病予防を行うことが今までの流れではあったが、生活の質や健康寿命の維持、向上に関連付けて計画を立てられるとよい。 ・特定健診の受診率向上は重要であるが、対象は40歳以上であるため、高校卒業以降40歳までのAYA世代と呼ばれる若い世代の健康管理が課題となっている。自覚症状のない元気な世代の健康に対する意識をいかに高めるかについても今回の計画策定に盛り込むこともひとつの課題ではないかと考えている。		
25		内藤委員長	・特定健診は受診していないものの、かかりつけ医で定期的に健康管理をしているケースもあるため、何らかの形で医療との接点があるかを把握できるとよい。 ・国民健康保険に限られるだろうが、年に1回も医療機関を受診していない人の割合を把握できると、特定健診プラスアルファで、実質的に健康管理していない層がどれだけいるかがわかる。面倒でない範囲で調査して提示してもらえればと思う。 ・可能であれば次回までにデータを提示してもらいたい。		国民健康保険被保険者40歳～74歳における令和4年度の健診・医療未受診者は、14.0％（第3期データヘルス計画より引用）
議事2 （5）市民、小学生・中学生、保護者アンケート調査（案）について （資料7・8）					
26	市民アンケート	－	沖田委員	・「ふりがなのある調査票希望」について、問い合わせ先にもルビを入れる	問い合わせ先にもルビを追加する。
27		－	早崎委員	回答選択肢「1. はい 2. いいえ」の場合「1つだけに○」は不要では？	
28		問1	田中委員	・性別についての設問で、男・女のほかに「その他」の選択肢を入れるのは一般的か。学校現場では男女を聞くアンケート自体なくなってきているが、おそらくこの調査ではこの質問が必要で残されているかと思う。この表現の根拠があればよいが、違和感をおぼえる人もいるのではないかと。 ・他自治体では男・女と併せて「回答したくない」などの選択肢を設けていることが多い。	「その他」の表記については再度検討を行う。
29			内藤委員長	・死亡率や健康寿命など男女別に集計したいため、性別についての設問は必要と考える。	
30			沖田委員	回答選択肢を小中学生調査と整合性をあわせる	
31		問3	沖田委員	家族構成（世帯構成）に、答えやすいようにグローバルな表現、または但し書きを入れる	
32		問12	沖田委員	併せてという意味が伝わるよう1日にのべ何分歩いていますかにしては？	
33		問15	沖田委員	他の表現と揃えて「場・機会」→「場・機会」にしては？	
34		問18	石橋委員、井上委員、沖田委員	一皿分は野菜を70g程度使った料理、という箇所ですが、野菜70gは具体例がないとわかりづらいかと思います。	
35		問27 問28	石橋委員	・和泉市の「伝統料理や郷土料理」の言葉が出てくるが、料理の名前がわかれば回答しやすいのではないかと。直前の問25など他の設問の※印の注意書きのように、郷土料理についての例示があるとよい。	
36			早崎委員	・えびじゃこを使ったものなど伝統料理はたくさんあり、アンケート本文に記載するには数が多すぎるが、大切なことなので入れられるとよい。伝統料理や郷土料理といわれても、若い世代を中心に知らない人が多いと思う。	
37			石橋委員	はいの人には、どんな料理か、料理名を聞くようにすると人々が和泉市の伝統料理だと思っているものが出てくるかもしれません。そのことによって、今後食育でアピールしていけるかも	料理名の把握までは必要ないと考える。
38			早崎委員	聞き方として、問27 あなたは和泉市の伝統料理や郷土料理を知っていますか？ 問28 知っていると答えた方にお尋ねします。それはどのような料理ですか？ と逆に問いかけて教えてもらえばよいのではないのでしょうかと	
39			永田副委員長	・この調査での郷土料理にはそれほど深い意味があるのではなく、こどもの頃から食べている“おふくろの味”のような料理を郷土料理と捉えてもよいのではないかと。秋田から和泉市に嫁いだ人が秋田料理を作ればこちらの郷土料理になるかもしれない。	
40			内藤委員長	・食育は健康づくりに資する部分もあるが、もうひとつ農政として、地元の農業を振興する大きな目的もある。問27については、地元の料理をしっかりと認識しているかという趣旨の設問である。 ・郵送料の問題はあるが、地元産品の宣伝にもなるので可能であればチラシを入れてもらってもよい。	・チラシを同封するかは検討する。同封できなくても例示は入れるようにしたい。
41			石橋委員	「いわゆる」の前に「和泉市以外で」を入れる。そのことによって※注欄ははっきりする。追加してその料理名は何ですかを入れる。回数より人々がどんなものを郷土料理としてとらえているか食べているかを今後に生かせるようにしたいかがでしょうか。	国の設問のため「和泉市」に限定しない形が適当。料理名の把握までは必要ないと考える。
42		問31	早崎委員	・食品の安全性に関する設問について、農薬か食品添加物か食中毒かなど具体的にどのようなものを想定されているかわかりづらく、回答しにくいのではないかと。	国の設問を参考に設定しており、特に詳細は想定していない。定義付けする必要があるれば設問を修正することは可能である。
43			内藤委員長	・食の安全性について、和泉市で特に問題になっている課題に合わせて特定したほうがよい。余裕があればすべて聞けるとよいが、設問数が多いので、ある程度特定してはどうか。 ・調査項目を確定させるのはいつか。	アンケートの送付は7月上旬を考えているが、2～3日のうちに調査票を確定させる必要があるため、意見があれば早めに事務局へ知らせてもらいたい。
44		問34 問35	中山委員	・こころの健康について、ストレス解消についての設問はあるが、和泉市は自殺者数も多いので、どの程度ストレスを感じているかの設問があってもよいのではないかと。	指標のための設問のみ入れている。現状分析や取組検討は昨年度自殺対策で実施した調査結果を用いることが可能である。
45		問44	沖田委員	アプリを使用しているにしてもしていないにしても「だから？」という次の展開が欲しい。何のために聞くのか？ アプリではなく、書籍を活用してアナログでされている人は「2」になるが、それでよいのか？アプリの利用率を知りたい？健康管理の実施状況を知りたい？	国が示す新たな視点5つのうちの1つにICT活用があり、国・府の設問も参考に本市における状況を把握し、取り組みを検討していくために必要である。
46		問45	沖田委員	「3. 4年以上に1回の…」という表現について「4年以上」であればネガティブな表現になるが「4年以上受けていない」と詠う方が妥当では？ 「2. 2～3年に1回の…」自体を「毎年ではなく不定期で受けている」などとしては？ ※2～3年である必要があるか？ 毎年か、たまにか、長期中でインターバルが空いているのが聞けたら良い	

別紙調査票参照

47		問49	沖田委員	昨今「老人会」という表現は全国的に減少しており、和泉市内でも「老人クラブ」と概ね団体の名称が変わっております。 「① 町内会」→「①町会」に変更した方がよいのでは？「自治会、町会」を並べて記載するか、「自治会等」などでボカす（包括する）などのひと手間がある方が無難だと思いました。 「計画策定」に基づくアンケートの狙いとしては「やっていない」「できていない」ことに着目して底上げを図るための題材を得るといった意味合いがあると思います。ネガティブな回答にこそ、展開の切り口があると考えますので、出来る限り「理由（原因、動機）」までは触れておきたいと思いました。	
48		－	嶋田委員	・かかりつけ医がいるかについてデータはないか。かかりつけ医があることは非常に重要と考えるので、ぜひアンケートで確認してもらいたい。	・既存のデータでは把握が難しいが、アンケートで確認することは可能である。
49		－	永田副委員長	・かかりつけ薬局があるかについても確認してもらえるとよい。医者に言えないことを薬局で話すケースもあると聞く。また24時間対応の薬局もあるようで、実態を確認できればと思う。	
50	小中学生アンケート	問5	沖田委員	流れ的には「午後１２時」だが、「深夜１２時」の方が一般的でイメージしやすいのでは？	
51		問6	中山委員	・問6「1日に何回歯みがきをしていますか」の設問で句点「。」が抜けているので入れてもらいたい。	
52			沖田委員	「ほとんどしない」→「少しはしている」あるいは「１回はしている」など受け取り方に違いが生じるのでは？	
53		問7	沖田委員	「２．妊娠中は～」赤ちゃんは体重が小さいのが一般的なイメージなので、タバコの影響で「標準よりも」小さくなることがわかることばを加えてはどうか	
54		問8	沖田委員	「４．心身の成長を妨げる」とはどう妨げるがわかりにくいのではないかと 「５．～赤ちゃんにもがある」→「～赤ちゃんにも害がある」の脱字？	
55		問21	沖田委員	「食事の時」に限定しなくても良いのではないかと	
56		問22	沖田委員	質問が唐突な印象を受けるので「これまでに」といったことばを足してはどうか？	
57			問32	沖田委員	「書いてください」としているが、「書かなくて大丈夫です」とも書いてあり混乱するのではないかと。
58	保護者アンケート	－	嶋田委員	・0歳児からスマホを触る家庭もあり、食事や睡眠に直接影響するものであるため、インターネットの家庭内の利用時間についての設問を入れてもらいたい。	
59		問5	沖田委員	「３．その他」「４．答えたくない」は他と揃える必要はないかと	
60		問13	沖田委員	「小・中学生アンケート」と設問の表現を揃えたらどうでしょうか？	
61		問14	沖田委員	歯磨きも大切ですが、幼児は特に虫歯の有無と治療のための受診状況は確認しなくても良い？「小・中学生アンケート」に揃えてはどうか？	
62		問28	沖田委員	問２８の前に、育児に関する情報は何かから入手しているか質問できないかと 市広報、フリーペーパー、SNSなど… 情報の入所手段を聞いておくと、今後のアプローチ方法の選択肢として有効打があるかもと考える。	
挨拶					
63	副市長挨拶	副市長	【意見について】 大小にかかわらず、考え方の根本につながっていると考えているので、引き続き忌憚のない意見をいただきたい。 【計画策定の考え方について】 ・第3次予防に加えて第0次予防、社会環境への介入も議論したい。 ・無関心層が自然に健康になっていくまちづくりも目指していきたい。 ・健康の概念をより広く「ウェルビーイング」として考えるといった議論もしなければならない。 ・虫歯の本数のみが歯の健康・口の健康ではないとの考え方も明記しなければならない。 ・インターネットの使用や睡眠、職場におけるパワハラ、セクハラなど健康にかかわる問題であるため、それらについても議論できるとよい。 ・食育について、健康増進や栄養向上の観点のみでない意味や食をめぐる争い、食を中心とする家庭や地域の強化についても議論したい。 ・基本目標、スローガンを決めなければならないことを念頭に置いて検討委員会を進めたい。 【進め方について】 ・抜け落ちがないよう、しっかり我々のほうで確認し、今後も良い検討委員会にしていきたい。		ウェルビーイング推進会議とも連携し、議論いただきながら、左記事項を意識して、計画の策定に取り組んでいく。